

令和7年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立大家小学校
実施日	令和8年2月12日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	本校は、目指す学校像の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルで取り組もうとしているが、振り返り→改善がまだ弱い部分があるのできちんと実践を振り返って生かせることよい。 評価A・Bは難しい。引き続き組織的に取り組めるように情報共有をしていきたい。 働き方改革として残業の改善や、会議に要する時間の縮小を実施していることは分かるが、重要な部分の話合いに要する時間が削がれるのは違うと思う。職員全体の共有事項は時間を取って話し合うべきではないか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 95%もの保護者が学校教育目標方針をわかりやすく伝えていると感じていることが素晴らしい。 年度当初の懇談会の際に「学校教育目標」について説明があり、目標を達成するための具体的な取り組みについて「学校だより」により説明していただいているため、計画的に取り組んでいると感じる。 地域の方々の協力を得て小規模小学校ならではの特色を活かした教育が行われており心を育む教育になっている。 限られた時間の中で取り組まれている先生方に感謝している。話し合いの優先順位を明確にし、進めてほしい。
	2	本校は、災害や事故等に対する組織的な体制を整えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 訓練、点検等取組がある。 避難訓練やシェイクアウト訓練を行い、児童も緊急性のある事態に素早く対応できるようになっている。 定期的な訓練やマニュアル、安全点検を実施できていると思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員の評価から充実していると思われる。 毎朝、校門に先生が立ってくれているので安心して通学させることができている。 定期的な避難訓練やシェイクアウト訓練の取組を行っており、これまでの取組の積み重ねが児童の行動に繋がっていい。 一方で下校時の雷雨対応など、新たな事案が発生した際や昨今の犯罪動向(不審者など)を踏まえ、既存のマニュアルでは対応できないことについては適宜修正していただき、教員へ共有していただくより安心できる。
	3	本校は、働き方の改善を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 残業を減らすように声をかけ合い心がけている。 計画年休も誰もが取りやすい雰囲気よい。 声掛けはしているものの仕事が終わらずなかなか帰れないときがある。 平日の勤務を減らしても、土日や家で仕事をしていたら働き方の改革にはなっていないと思うので、土日が休めるように必要最低限の仕事ができるように改善を図ることが望ましいと考える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 働き方について色々と工夫し、努力している様子が伺われる。 真面目な教員ほど残業が多くなり、心身の健康が心配である。「ノ残業デー」の設定など取組を行っていているが、根本的な解決には至っていない印象がある。 「残業を減らさなくては」の思いから家に持ち帰ったり退勤したことにしたりして仕事する等、先生方が追いつめられないよう配慮してほしい。
教育課程・学習	4	本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。(市重点項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのブロックや全体でも研究授業を実施し、研修を深めている。 ペア・グループ活動を積極的に行っている。 一人一人授業を行う時に、その授業に関しても、ブロック1回は指導案検討してから授業を行わないと、個人の授業を見るだけでは、研究になっていないように感じる。指導案作成→指導案検討→研究授業→研究協議をする。ブロック研修が他のブロックに公開されていないので、記録を担当した人が職集などで報告するなど、全職員に周知することが必要だと思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観でもグループ学習で児童同士で活発な話し合いが行われており、また児童が手を挙げて発言する姿もよく見れた。 先生の質問は、すぐに答えを出すのではなく、グループで考えさせる意識が見え、発表に困る児童がいた時には、他の児童や教員がヒントを出し、フォローする姿も見られた。このようなことから主体的・対話的な授業づくりができていると感じる。 校内の人数が少ない為、多様な考え方や授業展開の工夫など新しいアイデアが他校より少ないことが予想される。継続した改善と課題意識をお願いしたい。
	5	本校は、豊かな心を育む教育の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止の授業を行った。 人権習慣やいじめ撲滅強調月間では、学校全体で意識づけよう取り組みを行っている。 言葉遣い・挨拶の意識を持って児童と接していきたい。 道徳的価値を大事にして道徳教育を進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も「命の健康教育」をテーマにした講演があり、良い取組だと思う。継続して進めていただきたい。 挨拶は、集団生活の基本であり、児童と登校することもあったがしっかりとできていると感じた。 本校では、いじめ防止の授業を行ない、いじめに発展しそうな言動や行動について先生がしっかりと見守っていただいている印象なので安心できる。 アンケートや保護者のコメント、立暗指導でも「あいさつ」が出来ていない児童が多いという印象が強い。不審者対応と誰とでもあいさつする事は、指導も難しいと思うが、根本的な事をきちんと教える事が大切だと思う。
資質の向上	6	本校は、体罰や交通事故等の不祥事を根絶するための効果的な取組を実施している。(市重点項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員室の雰囲気がよい。 生徒指導の面では、個人で行動してしまつてトラブルになった事例もあったので、報告連絡を密にすることが大事だと思う。(引継ぎも) 威圧的な態度に職員全体で気をつけて見ていきたい。1番は児童の対応等に対して担任や教務部の悩みや、不安を聞いてあげられるような環境が大切だと思う。自分ため込みすぎず、話せる環境を大事にしていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 雰囲気の良い職場づくりに向けた取組が行われていると思う。職員の皆さん同士が仲が良いことが事故や不祥事を起こさない要因にもなると思うので、今後も取組を継続していただきたい。 教育長より直ぐに校内点検を呼びかけるよう通達があり、坂戸市は直ぐに動けていたので安心している。 不祥事はあってはならないもの。継続した取り組みをお願いしたい。
	7	本校は、不登校の未然防止や課題解決のための取組を実施している。(市重点項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への電話対応や面談などを積極的に行っている。 不登校児童や、不登校傾向児童に対する対応に課題があると思う。一人の職員に負担をかけるのではなく、その人がいなくても安心して任せられるようなシステムや、人員が必要だと思う。 児童が躓いたときに、教師の思い込みや考えが、児童の本当の想いを語らせることを阻んでしまうことがあると感じる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の児童の保護者と面談を行ったと聞いており、職員が保護者に真摯に向き合い対応してくれている。 不登校には複雑な要因が重なっている。1名の職員では対応は難しい。心のケアはまず、じっくりと話を聞くことから始められると良い。 学校に登校しないことも1つの選択肢となっている今、個別の対応にはきりがなく未然防止を充実させることが大切。大変だと思うが、少人数のメリットを今後も活かしてほしい。
学習環境	8	本校は、特別支援教育の充実を図っている。(市重点項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> 気になる児童に対する話し合いを積極的に行っている。 特別支援学級に限らず、支援が必要な児童や保護者に対してまだまだ対応しきれていない場面がある。引き続き児童を観察し、保護者に寄り添えるように特別支援教育の実施を図っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> わかば学級の児童と通常学級の児童との壁を感じないことから取組の成果を感じる。 児童と同じ目線で声掛けをしながら、1人ひとりの障害特性や発達段階に応じた対応をしていただいている。 特別支援学級だけでなく通常学級でも特別支援的な視点での指導や支援が必要である。個々に違う悩みがあるのでその都度JITに取り組んでほしい。
家庭連地帯との	9	本校は、積極的に家庭・地域等と連携・協働している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事を頻繁に行っている。 豊作応援団の方や、読書ボランティアの方が、児童の情操教育にたくさん協力してくださっていて感謝している。 ホームページやすぐるをさらに活用して、学校の教育活動を発信していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各行事では教員と保護者だけでなく、地域との連携ができていると感じている。 持久走大会や運動会など多くの保護者がサポートし、収穫祭や田植えなどでは、地域と連携して取り組んでいる。 「すぐる」で、急な連絡も確認できるので、天候に左右されるであろう行事に対応できるので、すぐるに積極的に活用して準備の負担軽減が出来ることよい。
小中連携	10	本校は、小中連携を推進している。	B	<ul style="list-style-type: none"> 2校の進学先の中学があり、連絡会は行っているが、共通した取り組みとなると難しいこともある。 本校の児童は、少人数でさらに2校に進路が分かれるので、小中連携が必要だと思う。先生方同士の情報交換ももっと積極的に行ったほうがよいと思う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学2校と連携し、その関係で他の小学校2校とも連携を行うことは難しいと理解している。何を行うか、具体案でしほりこむ必要を感じる。 中学校では、1年生の時に一定数同じ小学校出身の児童が同じ学級にるように配慮されていたが、それでも不登校になった児童が複数名いたことから今後もさらなる情報交換などの取組が必要と感じた。